

【まちを元気にするための「まち歩き」の取り組み】

C： わたしはラッピング店を経営しております。そもそも私がラッピングを始めようと思ったのは、製紙会社に勤務していたんですけれども、そのときまでこんな美しい紙を地元で製造されているということを知りませんでした。知らなかったことにショックを受けて、地元の人に聞いても、あんまり知られてなくて、それで何とか知ってもらうにはどうしたらいいかなと思って考えたのが、ラッピングをするということでした。

それで、紙を広く知ってもらう、買ってもらうことで、高知県にも目を向けてもらいたいということで、土佐和紙を使った商品づくりをしたり、土佐和紙を使ったラッピングのワークショップなどを行っています。今でしたら、坂本龍馬関係の仕事なんかも来ますので、坂本龍馬の形をした箸袋とか、中岡慎太郎とか、お龍とかという感じで考えています。また、実際販売しているもので、全部土佐和紙を使った金封を作ったりしております。

昨年からは土佐市で「まち歩き」というのを企画しております。私は土佐市で生まれ育っておりますが、どんどん土佐市が元気がなくなっているように感じております。人口も少なくなっていて、商店街も寂しくなる一方で、若い人たちにとっても将来に希望を持つことが難しい地域になっていると感じております。

わたしも含めて県外に出た子どもを持つ親などは、県外でそのまま職を探したらいいというのが普通の会話になってはいますが、やっぱり本心では高知に帰って来てもらいたいと思ってるはずなんです。帰ってきてほしいという希望だけを持つのではなく、親である私たちなど実際住んでいる者がワクワクして若い人が帰ってきたくなるような場所にするべきじゃないかと思って、土佐市を元気にするために自分ができることを考えたのが、まち歩きということでした。

現在、プログラム開発中で、まち歩きはまだ始まっていないんですけれども、実際に始動しているのはホームページの「とさあるく。」というものです。ここではウェブ上の道の駅みたいな感じで、土佐市の食とか人とかイベントなど、いろんな情報を細かく集めて発信することを考えています。

今後の取り組みとして、まずこのまち歩きというものの自体は、土佐市に興味を持ってもらうためのツールであって、土佐市プロローグと考えております。現在の取り組み、活動の中で実際のリアルな拠点がないということが困っている点です。将来的に拠点となる道の駅ができることを今目標にしております。

知事： これ面白いですね。「とさあるく。」土佐市の商店街なんですか。

高知県で例えば観光にしても、まちを楽しんでいただくとかいったときに、やっぱり歩くというのはポイントかもしれないですね。大規模な観光拠点施設、例えば東京ディズニーランドみたいなものがあるわけではない。けれど、普段の何気ないところに面白みがあるみたいなところはすごくあるんじゃないですかね。坂本龍馬ゆかりの地として、例えば潮江橋のたもとにあるクスノキがあるでしょう。当時侍の子たちはあの周辺で水泳の練習をして

たはずなので、あのクスノキというのは、樹齢からしても坂本龍馬も見てるんですね。普通のクスノキですけど、ただ歩いて、まち歩きして見ていてガイドさんに、「あれは坂本龍馬も見たクスノキです」と言われたら、おーって思うじゃないですかね。「ここのたもとで乙女姉やんに鍛えられたんですよ」とかいう話になりますと、土地土地の由来とか面白みというのが出てくる。そこに価値を見出していくみたいなやり方はあると思うんですよ。

全国的に有名になった典型的なものというのが、「長崎サルク」だと思うんですよ。今高知市では、「土佐っ歩（とさっぽ）」という名前で行くつかコースを設けてまち歩き観光をやろうとしてるんですけど、土佐市も「とさあるく。」というのを知らせていただきました、楽しみです。是非、頑張ってくださいと思います。

「土佐っ歩」というのも、始めて1年半ぐらいになるはずですけど、やっぱりコースによって成功するのと、そうではないのがあって、発着点がすごく重要だと言われたことがあります。「龍馬の生まれたまち記念館」という所をスタート地点にして、それを最後に戻ってくるっていうのはうまくいってるんだそうです。それが一番人気だと言っていましたけど、やっぱり拠点ははっきりしてるというのもあるみたいです。

是非進んでいけますように。いろんなアドバイザーさんなども全国的にいるらしいので、是非いろいろ(県の支援事業を)使っていただいて、進めていきましょうね。多くの地域で進んでいければと思います。